教職総合センターに関する動向

清水　睦美

教職総合センターは、在学生の教職課程の履修と教職志望学生および卒業生の教職キャリアを総合的に支援するセンターとして、2025年4月に新たに設立された。センター設立の目的は、女子総合大学として多くの学科の教職課程を有する本学ならではの教員養成の伝統と実績に基づき、本学教職教育を全学組織的に支援することである。

教職総合センターの事業は、カリキュラム部門、教育実習部門、教職キャリア部門の3部門で構成されており、教職キャリア支援は、教職キャリア部門が担っており、その取り組みを報告する。

1．2025年度の教職志望学生への支援

（1）教職志望学生への支援

1）2025年度前期

2025年度教員採用試験対策講座を、2024年秋より開始し2025年春に終了した。2024年度より大学3年次選考に対応するためクラスを増設しているが、2025年度も踏襲して6クラスを開講し、受講者は59名（幼11、小28、中高20）であった。うち新3年生は14名（小10、中高4）であった。2025年8月には、二次試験直前対策講座を自治体および学校段階別に10クラス開講した。受講者は1次試験に合格した55名であった。うち既卒者は1名であった。

2）2025年度後期

2025年10月19日に目白祭と同日開催の催しとして「卒業生（現職教員）と教職志望学生との交流会」を実施した。このイベントには1年生の参加が多く、教職キャリアの出発点としての効果があると考えている。2025年11月20日には、「教員採用試験ガイダンス」を実施した。その後、2026年度教員採用試験対策講座を開始した。2026年2月14日には、公開講座「教員採用試験入門～教職を志す皆さんへ」を実施し、同日に「教職志望学生と卒業生（現職教員）との懇談会」を実施した。教員採用試験対策講座は、2026年春に終了した。

教職志望学生への支援については、教員採用試験対策講座の受講の有無にかかわらず個別相談にも応じており、2025年度の相談件数は318件（のべ数）であった。

（2）現職教員への支援

教職総合センターの前身である教職教育開発センターの時代には、現職教員に対しても個別のアプローチを行っていたが、教職総合センターになってからは、在学生支援に重点をおいていることから、メールマガジンの発行を中心に行っている。メールマガジンの発行は年6回、本学の卒業生で教職に就いた者を中心に、メールアドレスの登録がある585名に配信している。

2．2026 年度の方針と展望

教職総合センターが設立されて１年が経過し、本学における教職に関するワンストップサービスの実現に向けた業務整理は、着実に進みつつある。今後は、自治体や私立学校との連携をさらに深めながら、学生に対して教職に関する情報を丁寧に提供し、一人ひとりの進路選択を支援していきたいと考えている。

一方で、教員不足の深刻化については、さまざまなメディアを通じて広く報じられており、それに伴う現職教員の業務負担の増大も大きな社会課題となっている。こうした状況の中にあっても、幸いなことに、現時点では本学において教員免許取得を希望する学生数や教職を志望する学生数に大きな経年的変化は見られず、いわゆる「教職離れ」は生じていない。

未来を担う子どもたちの成長を支える学校教員という職業に魅力を感じ、その道を志す学生たちの思いを大切にしながら、教職に就いている卒業生との連携も図りつつ、各学科と教職総合センターに関わる教職員が一丸となって、学生の学びと成長を支えていきたい。

（しみず　むつみ　教職総合センター所長）